

第2回調布市民プールに関するあり方検討委員会資料

令和7年8月26日（火）
午前 10時30分～

調査概要

調査の目的	調布市民プールや他の公営プールについて、利用者（受益者）である市民の利用状況や満足度、意向・要望等を直接把握し、今後の調布市民プールのあり方を検討するための基礎資料を得ることを目的に実施
調査対象者	16歳以上の市民 住民基本台帳から無作為抽出した市民3,061人 小・中学生 市内の公立小中学校の小学校3年生、6年生と中学校2年生の全児童・生徒計5,183人
調査方法	16歳以上の市民 郵送による配布・回収を基本としつつ、調査票の二次元コードからWEBフォームの回答も受け付け 小・中学生 各学校にWEBフォームの二次元コードを配布

回収結果

対象者	配布数 (件)	有効回答数計 (件)	有効回収率 (%)
16歳以上の市民	3,061	1,075	35%
小・中学生	5,183	2,963	57%

調査結果の概要

■公営プールの利用状況

- 居住地別の施設の利用状況をみると、各公営プールは、立地している地域の住民に多く利用されている傾向（認知度も同様の傾向）
- 市民プールは、①市内の公営プールの中で最も利用されている傾向、②小・中学生の利用においては、居住地域の偏りが少なく、全市的に利用されている傾向

■公営プールの主な利用目的

- 市民プール：「レジャー・水遊び」
- 総合体育館・調和小学校・京王アリーナTOKYO：「健康づくり」
- 小・中学生は、ほとんどの施設において、「レジャー・水遊び」を主な目的として利用

■プール施設を選ぶ際のポイント

- 「利用料金」と「通いやすさ」が重要
- 小・中学生にとっては、その公営プールが「屋外／屋内だから」という理由も一定割合あり

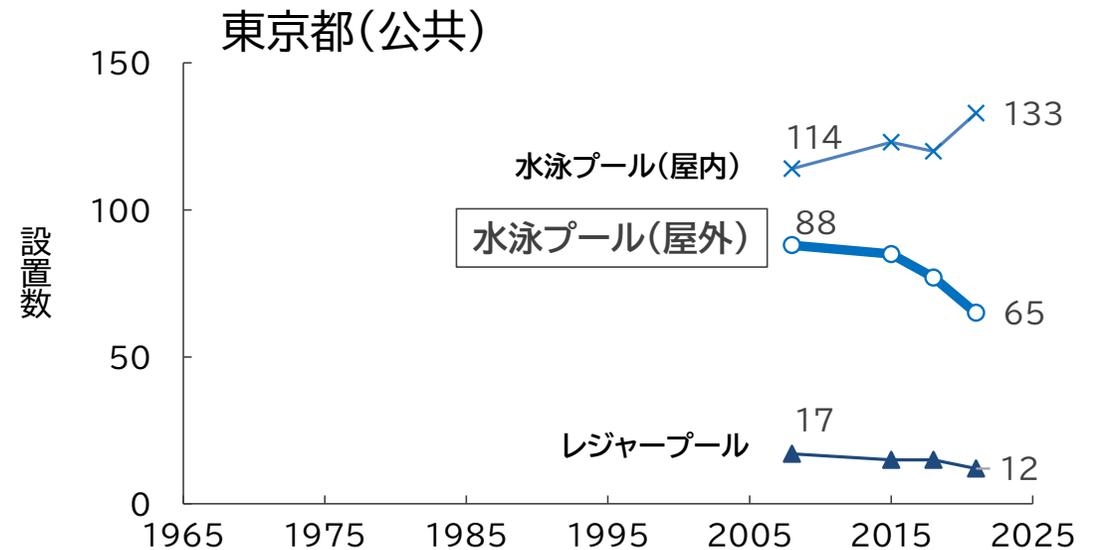
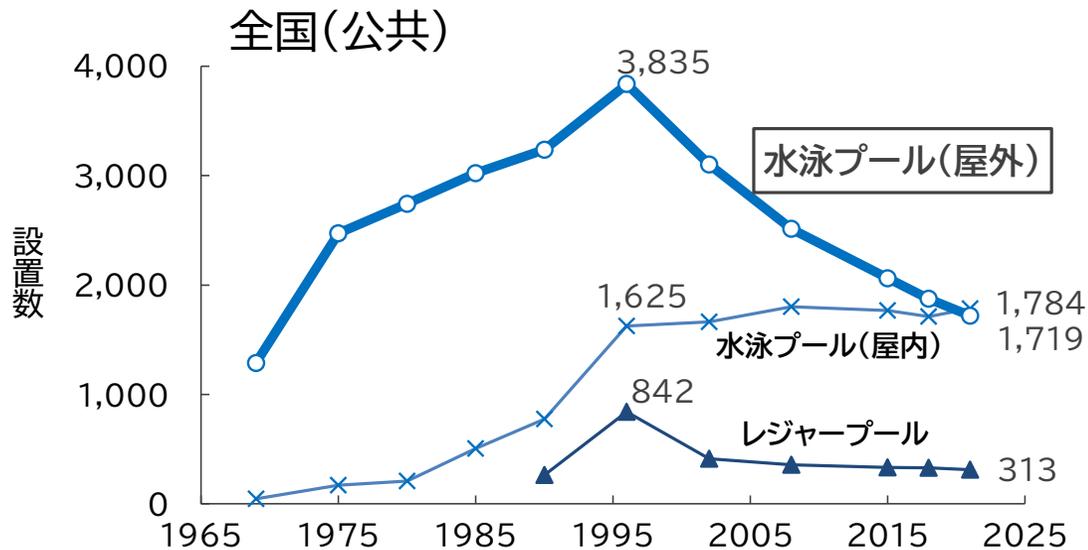
■公営プールに期待する役割

- 小・中学生や子育て世代：レクリエーション・水遊びの場
- 50歳以上：健康増進・体力向上の場

■市民プールや公営プールの必要性

- 存続希望：南部地域、50歳以上の意見が多い
- 廃止・統廃合希望：財政難や費用対効果を懸念する意見あり

- 1970年代以降, レジャーブームの定着や第二次ベビーブーム世代の増加を背景として, 主に子どもや家族をターゲットとした公営プール(主に屋外)が全国で次々と整備されました。
- その後1980年代からスイミングスクールやスポーツクラブ等の民間プール(主に屋内)が各地で整備されたことで, 夏季のみしか利用できない屋外プールの需要を奪い, さらにはバブル崩壊やレジャーの多様化, 猛暑やゲリラ豪雨など異常気象の増加もあり利用者が減少し, 自治体の財政難も相まって減少の一途をたどっています。



<調査におけるプール施設の定義>

水泳プール(屋内) : 水面積150㎡以上のもの

水泳プール(屋外) : 水面積150㎡以上のもの

レジャープール : 流水プール, 造波プールなどで, レジャープールとして使用されるもの

出典: 体育・スポーツ施設現況調査(スポーツ庁)

- 調布市民プールは、これまで夏季のレジャーや水遊び、健康づくりなどを目的に、多くの市民や子どもたちに利用され、一定の役割を果たしてきた。
- 一方、老朽化や猛暑など、屋外プール施設を取り巻く環境が大きく変化する中、市民プールのあり方検討に向け、市民プール及び市の公営プールを取り巻く課題を整理した。

市民プールの課題

(1) 熱中症リスクや気候変動リスクに対する安全・安心の確保

- 異常な猛暑や熱中症リスク、天候急変や自然災害など気候変動リスクが顕在化・深刻化
- 公共施設として利用者の安全確保が最優先

(2) 老朽化対策や維持管理コスト、公共的意義を踏まえた費用対効果

- 「市民プールは不要・廃止」とする意見もある一方、安価で気軽に利用できる価値や民間代替の限界を理由に存続希望の意見もある
- 多様な意見と公共的意義を総合的に勘案した方針の整理が必要

公営プールを取り巻く課題

(1) 「屋内プール」の利用ニーズへの対応

- 熱中症リスクや気候変動リスクにより、通年利用可能な屋内プールへのニーズが高まる
- ただし、レジャー・水遊び場としての屋外プールの需要も残る

(2) 日常利用に適した、身近なプール施設の配置

- 市内の公営プールは、立地している地域の住民に多く利用される傾向
- 市内には、市民プールを含め、東西南北に公営プール施設が分散しているが、市民プールが営業中止となっている現在は、南部地域の拠点がない

(3) 子供が楽しめる、未就学児が水遊びできる施設機能の確保

- 未就学児が水遊びできる公営プールは、市民プール(休止中)、調和小プールのみ
- 市民アンケートでは、幼児向け設備の充実を求める意見あり

市民プールが有する機能の整理・検証

目的・ねらい	・市民プールのあり方を検討するに当たり、市民プールが有する機能をそれぞれ個別に整理・検証し、機能ごとに考え方を整理
検証方法	各機能について、以下の①～③の視点から定性的に検証 ①利用者ニーズ 今後も安定的に利用ニーズが期待できるか ②代替困難性 他の施設で代替が困難な機能か ③費用対効果 効果(公共的な意義・役割)に見合うか

対象とする市民プールの機能

①50mプール



8コース
水深1.3～1.5m

②25mプール



6コース
水深0.8～1.1m

③幼児用プール, 変形プール



(幼児用プール) 12㎡, 水深0～0.35m
(変形プール) 水深0.4～0.9m

◎あり, ○どちらかといえばあり, △どちらかといえばなし, ×なし

機能	検証の視点		
	①利用者ニーズ	②代替困難性	③費用対効果
①50mプール	△ ・水深が深く、小学生以下は利用が困難 ・比較的泳ぎに熱心な愛好者の利用が期待できる	△ ・必ずしも身近ではないが、主に中学生以上が対象のため、近隣自治体含め移動可能と想定 ・50mプールあり 市内／京王アリオTOKYO 市外／郷土の森総合プール、府中市民プール等(市民アンケートで調布市民の利用実績を確認)	△ ・規模が大きく、イニシャル・ランニングコストともにかかる。
②25mプール	◎ ・南部地域の市民・子どもから利用ニーズあり(市民アンケート) ・多目的に利用が期待可(レジャー水遊び, 健康増進) ・屋内化で、よりニーズを高めることが可能	◎ ・南部地域の市民・子どもにとって貴重な身近で通える施設	○ ・子どもを含む多世代の利用が期待でき、50mプールに比べ費用対効果は高い
③幼児用プール 変形プール	○ ・子育て世代から利用ニーズあり(市民アンケート)	◎ ・市内には他に調和小学校のみ(市内で不足傾向)	◎ ・規模・水面積が小さく、イニシャルコスト・ランニングコストは比較的少ない

コスト見通しの整理・検証

目的・ねらい	今後想定し得るケースを対象に概算コストを算出し、市の中長期的な財政負担を整理・検証
算出期間	公共施設マネジメントの分野計画と整合を図り、令和8年度から令和28年度までの21年間とする
算出対象	建設費, 改修費, 解体費, 運営・維持管理費

<想定ケース>

想定ケース	ケースの概要
①現状維持(長寿命化改修)	・現在の位置で調布市民プールを改修して長寿命化を図り、市民利用を再開(維持存続)
②屋内プール整備	・屋内プール(25mプール, 幼児用プール)を南部地域(既存場所含む)に整備
③既存施設で機能代替	・現在の調布市民プールは解体し、既存の公営プールで機能を代替

※ 次回, 上記の条件を基に概算コスト算出結果を提示予定

想定ケースの比較検討

<評価の視点>

前項までの検討結果を踏まえ、下表に示す視点で左記①～③の各想定ケースを評価し、メリット・デメリットを整理

評価の視点	概要, キーワード
市民の 利便性	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民にとって身近で利用しやすい施設か <ul style="list-style-type: none"> - 身近さ(移動距離の目安 徒歩:1km以内, 自転車:3km以内) - 地域のバランス など
利用者 ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民の施設需要(ニーズ)に適合しているか <ul style="list-style-type: none"> - 安全・安心(熱中症リスク, 気候変動リスク等) - 健康増進, 日常利用 - レジャー・水遊び など
費用 対効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 財政的制約の中, 公共的意義に見合った合理的な支出か <ul style="list-style-type: none"> - ライフサイクルコスト(イニシャルコスト・ランニングコスト) - 営業期間(通年>夏季) - 不採算リスク, 営業継続リスク など
関連 計画	<ul style="list-style-type: none"> ● 調布市が掲げる関連政策の考え方と適合しているか <ul style="list-style-type: none"> ①「調布市スポーツ推進計画」(令和6年3月) <ul style="list-style-type: none"> <調布市が目指す将来像> 『生涯にわたって誰もがスポーツに親しみ 生き生きと過ごせるまち』 ②「調布市公共施設マネジメント計画」(令和5年2月) <ul style="list-style-type: none"> <公共施設マネジメントの目標> 『施設の全体数や床面積, 管理運営・改修費の抑制』

※ 次回, 上記の視点を基にメリット・デメリット, 総合評価を提示予定

今後の検討課題

(1) 総合的な評価に基づく今後の施設のあり方の整理

- ①市民の利便性, ②利用者ニーズ, ③費用対効果, ④関連計画の4つの視点を基本とし, 各想定ケースのメリット・デメリットを整理しつつ, 公共的意義・役割を踏まえて今後の方向性を整理する。

(2) 多様な市民意見の聴取・分析, 市の考え方の整理

- パブリック・コメント手続きを見据え, 市民・学校アンケート等で把握した市民の多様な意見・要望等を分析し, 市民意見等を踏まえ, 市としての方向を整理する。

(3) 次年度以降を見据え, 今後の進め方の整理

- 「(仮称)市民プールのあり方に関する基本方針(案)」に基づいた次年度以降の取組について, 今後の進め方を整理する。

今後のスケジュール

日程	事項	主な内容(予定)
9月下旬～ 10月上旬	第3回 市民プールのあり方に関する検討委員会	● 中間報告((仮称)あり方に関する基本方針(素案))
10月中旬以降 ～(1か月程度)	パブリック・コメント手続の実施	● (仮称)市民プールのあり方に関する基本方針(素案)に対するパブリック・コメントの手続の実施
12月頃	第4回 市民プールのあり方に関する検討委員会	● (仮称)市民プールのあり方に関する基本方針(案) ● 今後の進め方 など

※現時点でのスケジュールのため, 今後の検討状況などによって変更となる場合がある